



語り手 安部イトさん（明治27年生まれ）
収録・昭和45年7月15日

あらすじ

昔、じいさんとばあさんがおったげな。じいさん、大きなコブが出ていたそうで、それから山へ木樵りに行って、藪に隠れていたら、天狗さんが三人ほど出て、

天狗 天狗 メッテング
天狗 天狗 メッテング

と踊られるが、あまりおもしろいものだから、じいさんも藪の中から出て、

天狗 天狗 メッテング
じいをそえて ヨッテング

と踊ったら、天狗さんがたいへんに喜んで、「じい、上手だな」と言い、それから、「こりやあ、おもしろいコブが出ちゃう。コブ取ってやらあか」と、コブを取ってしまった。すると、顔が軽くなってしまい、じいさんはとても喜んで帰って来たげな。

隣のじいさんにもコブが出ていたが、先のじいさんの顔を見て、「おまえ、コブ、どげして」「山へ木樵りに行ったら、天狗さんが踊っちゃらっしやて、あんまりおもしろいもんだけん。」「天狗、天狗、メッテング、じいをそろえて、ヨッテング」と踊ったら、天狗さんがコブ取ってござっしやって、ほんに軽うなつていいことよのう」と答えたげな。

天狗 天狗 メッテング
じいをそえて ヨッテング

と言いながら踊ったら、「ああ、じいの踊りが上手だなあ」と言い、「じい、コブが出ちゃうなあ、もう一つやらあか」と、前のじいさんのコブを、ちよつとつけてもらったので、そのじいさんは両方へコブが出て、それから泣き泣き帰ったげなと昔こぼし。



https://kanbenosato.com/minwa/kanchu_200609.html

解説

安部さんのお宅で語っていた。出雲かんべの里・民話館「むかしばなしの部屋」で、とんと昔のお話会の岡村悦子さんが語っている「コブ取り爺」の原話がこれである。聞き比べていたきたい。

ところでこれはよく知られている話とは少しばかり違っている。大きく眺めると二カ所ばかり認められるようだ。まず、歌の詞章が明らかにされている。そして天狗とじいさんの歌の詞章は少し異なる。いま一つの違いは隣のじいさんの踊りに対する天狗の評価が高い。天狗たちは最初のじいさんだけでなく、隣のじいさんに対しても、「上手だ」と誉めている。一般型の話では、隣のじいは踊りが下手なので、天狗も退屈して昨日のじいから預かったコブを、同じじいと思ひ返すことで終わるが、こゝ奥出雲町の話では、隣のじいには褒美としてコブを進呈することになつていたのである。

（元島根大学法文学部教授）